

劇場用長編映画

「背を向ける (仮題)」

企画書

フィルムアジール

Film Asile

彼らは犯人と社会から殺された。

事件を内側から追体験し、障害者差別を考える。

2016年7月26日、
相模原市の障害者施設・津久井やまゆり園で、
元施設職員の男が入居者19名を殺害した。

彼らの名前が世に明かされることは無く、
事件はやがて、人々の記憶から薄れていった。

「背を向ける」は、
事件を内側から追体験する映画だ。

障害者施設がどういう場所であり、
そこで暮らす彼らはどう生き、
どう命を奪われたのか。

あの日何が起きていたのかを、
内側から知り見つめなおす。

未来を共に生きるために。

あらすじ

関東近郊にある障害者支援施設ひまわり園。そこに住む入居者たちはそれぞれ重い障害を抱えながらも、個性豊かに一日一日を暮らしていた。その日も、いつもと同じ平凡な一日になるはずだった。悲劇は突然起こった…。

主な登場人物

●青年

26歳。本作主人公。ひまわり園の入居者19人を殺害、職員合わせ27人に重軽傷を負わす。事件の5か月前までは、ひまわり園で3年間勤務していた。上半身に大きな入れ墨があり、犯行に備え体も鍛えており筋肉質。マリファナを吸い続けている。

●ひまわり園入居者（役付きは6名程度の予定）

(※実際の障害者を起用し、本人の実名及びパーソナルデータを反映させた本人自身の役として演じていただく。)

●ひまわり園職員（役付きは3名程度の予定）

●雑誌編集長

62歳。犯人の青年に面会を重ねながら取材を続ける雑誌「想」の編集長。被害者への謝罪の気持ちを引き出そうと何度も試みているが、その意志の全く無い犯人にジレンマを抱いている。

●デリヘル嬢

21歳。犯人の青年が犯行前に抱いた最後の女性。

作品スタッフ

●監督・脚本：ト部敦史（うらべ あつし）

1981年生まれ。映画の助監督、TVの報道取材の仕事を経てフリーに。2010年劇場用長編映画第1作「scope」を監督。渋谷アップリンクでの3ヶ月ロングランを皮切りに全国劇場公開。2013年短編映画「萌」を新宿K's cinemaにて劇場公開。2016年長編第2作「まなざし」は、在宅介護をテーマに介護福祉士として働き取材を重ねながら製作。

バンコク世界映画祭、ドイツ・ニッポンコネクションでの上映を経て、全国劇場公開。「性犯罪加害者の更生」「死刑」「在宅介護」など社会的テーマに挑み続けている。現在は障害者施設で勤務し、そこで得た着想から今作の製作を決意する。

●撮影・脚本：堀井威久磨（ほりい いくま）

1981年生まれ。山梨県出身。大学時代に超伝導工学を専攻するも、独学で映像を学び、映像ディレクター・撮影監督としての活動を開始、多くのCM・PV等を演出。311後の警戒区域内被災動物を描いた監督作・短編映画『Sacrifice』はハリウッド開催の映画祭LA EIGA FEST2012をはじめヨーロッパ・アジア諸国に招待され各国で評価を受ける。ト部敦史と映画の共同制作を開始し長編映画「scope」「まなざし」では撮影監督・脚本・プロデューサーとして作品に携わる。

●プロデューサー：大越康男（おおこし やすお）

1959年、東京生まれ。50歳で脱サラし日本映画学校に入学、映画の基礎を学ぶ。2012年、東日本大震災を取材したドキュメンタリー映画『立入禁止区域・双葉～されど我が故郷～』を映画学校在学中に講師（佐藤武光監督）と制作、渋谷アップリンクで上映した。2014年、介護初任者研修でト部敦史氏と知り合い、映画『まなざし』の助監督・制作プロデューサーで参画。

製作スケジュール

リハーサル、衣装合わせ等：2018年11月

撮影開始：2018年11月～12月を予定。

撮影地区：都内、関東近郊予定。

作品完成：2019年夏頃を予定。

作品完成後、

世界12大国際映画祭への出品を目指し、

2020年全国劇場公開予定。

2018年5月13日
企画・著作

フィルムアジュール

Film Asile

オフィス住所：〒216-0004
神奈川県川崎市宮前区鷺沼3-4-2ディアレンス鷺沼S203号室
携帯：080-9993-2034
eメール：scope.film@gmail.com